



柏崎市文化会館 アルフォーレ 外構計画

株式会社環境デザイン研究所 仙田 満, 町田潤哉

柏崎市文化会館アルフォーレは、市の第四次総合計画における市民の芸術文化活動の拠点として整備された多目的ホールである。建物を極力敷地北端に寄せて南側に広がりのある外構空間を確保し賑わいのある市民広場の創出を図った。近景の道路・駐車場を隠しつつ遠景の山並みを取り込む築山を設け、郷土種による植栽林と散策路、また建物に面して芝の段床を設けて劇場広場とし、正面の市民ラウンジと一体的な空間とした。市の後援の元、地元有志が企画、設計者がデザイン監修したメモリアルタイルを地元の親子イベントで作成・設置し、劇場広場に賑わいと親しみやすさが加わった。豪雪地という立地条件を考慮し雪・風をよけて文化会館エリアを回遊できる都市廊を整備した。

作品評

この作品は、柏崎市の玄関口である駅前において、中心市街地活性化の先導拠点であり、また、市民の交流促進と賑わいを創出する文化・交流施設ゾーンの中核施設として位置づけられた新市民会館の外構計画である。

このような状況下において、建築と外構の一体化がデザインとして工夫され、ランドスケープ空間を創出しているところが評価された。特に、景観に対する配慮、雪国の気象や特殊土壌といった地域性への配慮、ランドスケープの重要要素である植栽の工夫、また、これらハード面だけではなく、メモリアルタイルの設置に際してのソフト面での工夫などは、まさに市民の交流、賑わいの演出手法として高く評価された。

惜しむらくは、プレゼンテーションにおける説明が不十分な面があった。例えば、景観に対する配慮の考え方は理解できるが実際はどのように対応したか、また、植栽に関してもイメージ写真はあがるが、実際どのような方法がとられたかが十分に伝わらず、これらの表現方法次第ではより高い評価を得たであろう。

作品概要

作品名：柏崎市文化会館アルフォーレ 外構計画
所在地：新潟県柏崎市日石町
発注：柏崎市
設計：株式会社環境デザイン研究所
設計協力：ARUP JAPAN 及び株式会社ライティングプランナーズアソシエイツ
監理：株式会社環境デザイン研究所
施工：植木・阿部・東北特定共同企業体（建築外構工事）、東新環境保全株式会社（植栽工事）、植木組柏崎支店（駐車場整備工事）
設計期間：基本設計：平成21年3月～平成21年9月
実施設計：平成21年10月～平成22年5月
施工期間：平成22年8月～平成24年6月
規模：文化会館外構整備：6,600㎡、駐車場整備：17,400㎡
計510台、屋根付き回廊整備：280㎡ 合計24,000㎡
主要施設：野外劇場、都市廊、緑陰広場、散策路、メモリアルタイル



建物南面に十分な外構空間を確保し、なだらかな築山を設けてコナラ・ケヤキなどの郷土種による植栽を行い、隣接する駐車場や道路からのバッファゾーンを形成した。周囲に対しても劇場広場での音影響を抑えることができると共に緑豊かな景観を提供することができる。築山には散策路を確保することで劇場広場を囲む緑豊かな市民の憩いスペースとして利用することができる



南面サッシュ解放時の市民ラウンジと劇場広場の一体感。遠景に黒姫山・米山を望む



劇場広場を彩るメモリアルタイルの共通テーマは名物「ぎおん柏崎まつりの花火」



都市廊一庇下空間や独立した屋根付回廊により雪・風をよけて敷地を回遊できる